

文化財保護活用課

1. 事業概要

(1) 文化財等の保存・継承・活用の推進

- ・ 指定文化財候補となる地域資源に関する調査
- ・ 飯田市文化財審議委員会の開催と文化財指定
- ・ 国及び県文化財指定に向けた調査、働きかけ
- ・ 文化財パトロールの実施と所有者が行う指定文化財の保護、修理事業への補助
- ・ 文化財情報の発信
- ・ 史跡恒川官衙遺跡の保存活用のための調査及び史跡公園整備の推進
- ・ 史跡飯田古墳群の保存活用のための調査
- ・ 名勝天龍峡の保存活用の推進
- ・ 遠山の霜月祭をはじめ、民俗芸能伝承活動への支援
- ・ 下伊那誌編纂事業への支援
- ・ 旧飯田城下町の区域にある歴史資源の資産化と活用の推進
- ・ 遠山郷の地域資源の調査と文化財指定による資産化
- ・ 飯田市考古博物館等における出土遺物の収集・保存・調査・展示、教育普及の推進

(2) 埋蔵文化財の保存活用の推進

- ・ 古代伊那郡衙の解明に向けた恒川遺跡群における保存目的調査
- ・ 飯田古墳群の解明に向けた古墳の保存目的調査
- ・ 開発にともなう発掘調査事業【単独事業、受託事業（国、県、市、民間）、補助事業】
- ・ 埋蔵文化財包蔵地の周知

(3) 文化財関連施設の管理運営

- ・ 飯田市考古博物館、飯田市考古資料館、旧小笠原家書院・小笠原資料館、北田遺跡公園、上郷歴史民俗資料館、旧座光寺麻績学校校舎、菱田春草生誕地公園、旧飯田測候所、飯田市恒川官衙史跡公園等の管理運営



史跡公園整備（史跡恒川官衙遺跡 恒川清水）

史跡の学習会（史跡飯田古墳群飯沼天神塚古墳）

2. 資料

(1) 所管する審議会

○飯田市文化財審議委員会

(文化財保護法第190条第1項、飯田市文化財保護条例第3条による設置)

(2) 所管施設

種 別	数	摘 要
博 物 館	1	飯田市考古博物館 (秀水美人画美術館併設) R3.4.1 から
文化財関連施設	10	飯田市考古資料館 旧小笠原家書院 小笠原資料館 北田遺跡公園 上郷歴史民俗資料館 県宝旧座光寺麻績学校校舎 菱田春草生誕地公園 竜丘民俗資料館 旧飯田測候所、飯田市恒川官衙史跡公園

(3) 文化財の指定状況 (令和5年3月31日現在)

①国指定文化財(18) 国選択文化財(9) 国登録文化財(10)

- 有形文化財・・・・・・・・・・国宝(0) 重要文化財(8) (登録)登録有形文化財(10)
- 無形文化財・・・・・・・・・・重要無形文化財(0)
- 民俗文化財・・・・・・・・・・重要有形民俗文化財(1) 重要無形民俗文化財(1)
(選択)記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財(9)
※以下、「選択無形民俗文化財」とする
- 史跡名勝天然記念物・・特別史跡(0) 史跡(2)※うち飯田古墳群は13基
特別名勝(0) 名勝(1) 特別天然記念物(2)
天然記念物(3)

②長野県指定文化財(33) 県選択文化財(7)

- 有形文化財・・・・・・・・・・長野県宝(10)
- 無形文化財・・・・・・・・・・長野県無形文化財(0)
- 民俗文化財・・・・・・・・・・長野県有形民俗文化財(0) 長野県無形民俗文化財(0)
(選択)県選択無形民俗文化財(7)
- 史跡名勝天然記念物・・長野県史跡(6)※うち1件は飯田古墳群と重複
長野県名勝(0) 長野県天然記念物 (17)

③飯田市指定文化財(105)

- 有形文化財(57)
- 無形文化財(3)
- 民俗文化財(9)
- 史跡(13)※うち1件は飯田古墳群と重複
- 名勝(0)
- 天然記念物(23)

④その他(9)

- 国認定 重要美術品(9)



①国指定・選択・登録の文化財

指定種別	指定年月日	名称・所在地	員数	概要
重要文化財 (彫刻)	S24. 2. 18	あみだによらいざぞう 阿弥陀如来坐像 (久米311 光明寺)	1体	像の高さ1.38mで、上品下生の印を結び跏趺座する。洗練された藤原期の作風で、平安時代末期の作と推定される。
〃	S33. 2. 8	もくぞうほんだわけのみことぞう 木造蒼田別尊坐像 (八幡町1999 鳩ヶ嶺八幡宮)	1体	高さ0.99mの冠束帯の坐像で、俗体の例は少なく造形も優れ、体内墨書により正応元年(1288)の作とされる。
(絵画)	H5. 6. 10	けんぼんちやくしよくはつそうねはんず 絹本著色八相涅槃図 (上川路1000 開善寺)	1幅	鎌倉時代中期の作品とされ、涅槃図を中心に釈迦の生涯の7つのエピソードが色鮮やかに描かれている。
(工芸)	S28. 3. 31	がもんたいしづつしじゅうきょう 画文帯四仏四獣鏡 (上川路1000 開善寺)	1面	直径23.7cmの白銅製で、中国六朝時代の製作、もしくは仿製鏡とする説がある。御旅堂古墳出土とされる。
(建造物)	S5. 5. 23	せきしつ ごりんとう 石室・五輪塔 (下久堅南原1142 文永寺)	2基	弘安6年(1283)癸未12月29日の刻名があり、知久敦幸62歳の時に南都の石工に造らせたことが記されている。
(建造物)	S9. 1. 30	はくさんしゃおくしゃほんでん 白山社奥社本殿 (風越山頂海拔1490m)	1棟	三間社流造、こけら葺、弁柄塗り。和様と禅宗様と大仏様の折衷様である。室町時代の永正6年(1509)の墨書がある。
〃	S27. 3. 29	きゅうおがさわらけしよいん 旧小笠原家書院 (伊豆木3942-1)	1棟	懸造、一重入母屋造、こけら葺で、桃山時代の建築様式が残る。寛永元年(1624)の建築で、地方豪族の居館で江戸期に遡る書院は全国でも例がない。
〃	S27. 3. 29	かいぜんじさんもん 開善寺山門 (上川路1000 開善寺)	1棟	三間一戸楼門(2階を欠く)、切妻造、銅板葺、瑠璃閣ともいわれる単層唐様建築で、室町時代前期の建築といわれる。
登録有形文化財	H17. 12. 26 登録	いだしおうてまちしょうがっこうこうしゃ 飯田市追手町小学校校舎 (追手町2丁目673-1)	1棟	昭和4年(1929)に建てられた鉄筋コンクリート造3階建の校舎で、意匠的に優れている。
〃	H17. 12. 26 登録	いだしおうてまちしょうがっこうこうどう 飯田市追手町小学校講堂 (追手町2丁目673-1)	1棟	昭和6年(1931)建築の鉄骨造平屋建の建物で、鉄骨造を感じさせない木造の内部構成が見どころである。
〃	H17. 12. 26 登録	きゅうやまもとちゅうがっこう 旧山本中学校 きねはらこうしゃかんりきょうしつとう 杵原校舎管理教室棟 (竹佐377-1)	1棟	昭和24年(1949)に建てられた木造平屋建、切妻造、棧瓦葺の建物で、当時の地方における学校校舎の姿をよくとどめている。
〃	H17. 12. 26 登録	きゅうやまもとちゅうがっこう 旧山本中学校 きねはらこうしゃきょうしつとう 杵原校舎教室棟 (竹佐377-1)	1棟	同上
〃	H24. 8. 13 登録	きゅういいたそつこうじょうちようしゃ 旧飯田測候所庁舎 (馬場町3丁目411-1)	1棟	大正11年(1922)に建てられた木造平屋建の擬洋風建築で、19世紀末にヨーロッパで流行した新様式を取り入れている。
〃	H26. 10. 7 登録	しもいなきょういくかいかん 下伊那教育会館 (仲ノ町303-1)	1棟	昭和13年(1938)に建てられた木造2階建の洋風建築。正面屋根中央にマンサードの破風、左右にドーマー窓を配している。
〃	H26. 10. 7 登録	しもいなきょういくかいどうぞう 下伊那教育会土蔵 (仲ノ町303-1)	1棟	昭和13年(1938)に建てられた、切妻造、2階建の土蔵。桁行3間、梁間2間半とし、正面に下屋を設けている。
〃	H26. 10. 7 登録	しもいなきょういくかいきゅうくろすけどうぞう 下伊那教育会旧黒須家土蔵 (仲ノ町358-3)	1棟	江戸後期に建てられた、土蔵造2階建で置屋根式の棧瓦葺である。武家屋敷の街並みを感じることができる。また、明治時代以降に再建されている。
〃	H26. 10. 7 登録	しもいなきょういくかいきゅうくろすけもん 下伊那教育会旧黒須家門 (仲ノ町358-3)	1棟	江戸後期に建てられた、間口2.4mの薬医門で、切妻造棧瓦葺である。武家屋敷の街並みを感じることができる。
〃	H28. 11. 29 登録	やなぎたくにおかん きゅうきたんしよおく 柳田國男館(旧喜談書屋) (飯田市美術博物館敷地内)	1棟	日本民俗学の創始者である柳田國男の書齋兼住居。昭和2年に建てられ、イングリッシュコロナージの木骨様式をよく示している。昭和63年に柳田家ゆかりの飯田市に移築された。

重要有形民俗文化財 (建造物)	S49. 11. 19	しもくろだ ぶたい 下黒田の舞台 (上郷黒田2346 下黒田諏訪神社)	1棟	間口8間、奥行4間、木造2階建、入母屋造の舞台で、屋根裏の梁組に亀甲梁を採用している。天保11年(1840)に建築され、黒田人形の上演に使用される。
重要無形民俗文化財	S54. 2. 3	とおやま しもつきまつり 遠山の霜月祭 (上村・南信濃)	1式	霜月に遠山谷の12ヶ所13社で開催される湯立神楽で、鎌倉時代の荘園儀礼が起源と考えられる。神名帳を奉読する神事は全国的に稀で、昼夜にわたり湯立と舞を繰り返した後、神々の面が登場する。
選択無形民俗文化財	S29. 11 選択	しょうがつぎょうじ 正月行事	1	日本の年中行事の中でも、盆行事と並び最も中心的なもので、その年の繁栄を祈る行事であったが、現在は急速に信仰色が失われつつある。
〃	S29. 11 選択	ちゅうませい 中馬制	1	中馬とは、塩をはじめとして必要な物資を馬の背を用いて運送するもので、特に大規模な輸送の組織として著名なものである。農民が従事し、主に馬で物資を信濃と三河・尾張の間を往復して運搬した。
〃	S36. 3 選択	ながのけんか だいはうてきみんか 長野県下の代表的民家の 間取り・使い方	1	本棟造は、切妻造り妻入りで緩やかな勾配の屋根をもち、雀おどしと呼ばれる棟飾りがある。その間取りはほぼ正方形である。
〃	S48. 11 選択	とおやましもつきまつり げいのう 遠山霜月祭の芸能 (上村・南信濃)	1	三遠南信地方に伝わる霜月の湯立神楽の一典型であり、芸能誌の展開を考える上で重要な神事的な民俗資料である。
〃	S52. 6 選択	ぼんぎょうじ 盆行事	1	仏教の影響を強く受けてはいるものの、民間の行事の実際には祖霊を祀って供養するという、日本固有の性格が伝えられている。
〃	S50. 12. 8 選択	いな にんぎょうしばい 伊那の人形芝居 (今田人形・黒田人形)	1	飯田市無形文化財の項を参照。
〃	S52. 6. 1 選択	しなの ひきりしゅうぞく 信濃の火鑽習俗 (上村程野)	1	木の棒を錐のように板の上で揉んで火を鑽りだす古来以来の発火法。程野正八幡宮の霜月祭のきしめ造り(12月1日)に行なわれる。
〃	H11. 12. 3 選択	しもいな おどり 下伊那のかけ踊 (上村下栗)	1	他の場所へ練り込み、太鼓・鉦を主要楽器として踊りかける形式のもの。災厄や祖霊等を送り出すため、盆や虫送り、雨乞い行事等と結びついている。
〃	H23. 1. 21 選択	いなだに ようかぎょうじ 伊那谷のコト八日行事 (千代・上久堅他)	1	2月8日や9日を中心に、無病息災や集落の安全を祈願する。子どもが禍をミコシや笹と共に集落の外に捨てる。
史跡	H26. 3. 18 H28. 10. 3 (追加指定)	ごんがかんがいせき 恒川官衙遺跡 (座光寺)	1	7世紀後半から10世紀前半にかけて営まれた古代の役所「伊那郡衙」と考えられる遺跡。正倉院を構成する建物址、館・厨とみられる建物址、祭祀が行われていた「恒川清水」が残り、和同開珎銀銭、硯、瓦、炭化米等が出土している。
〃	H28. 10. 3	いいたこふんぐん 飯田古墳群 (座光寺・上郷・松尾・竜丘 地区)	1	5～6世紀にかけて継続して築造された、11基の前方後円墳と2基の帆立貝形古墳の13基からなる。広範囲に及ぶが、一つの古墳群として捉えることで、古墳時代中・後期にみられるヤマト王権による政治支配の状況や東国経営のあり方を知ることができるとともに、ヤマト王権を構成する地域社会の動向を知る上でも重要。
		たかおかだいいちごうこふん 高岡第1号古墳 (座光寺3338-1 高岡神社)		墳丘の全長約72.3m、横穴式石室を有する前方後円墳である。6世紀前半の築造と考えられる。
		いいたまてんじんづか うんさいじ こふん 飯沼天神塚(雲彩寺)古墳 (上郷飯沼3334-1 雲彩寺)		墳丘の全長約74.5m、横穴式石室を有する前方後円墳である。6世紀前半の築造と考えられる。
		みさやまししづかこふん 御射山獅子塚古墳 (松尾久井284)		茶柄山古墳群の中心をなしており、全長約58m、高さ9mの前方後円墳で、5世紀末から6世紀の築造と考えられる。
		ひめづかこふん 姫塚古墳		墳丘の全長約40m、横穴式石室を有する前方後

		(松尾上溝3366-1他)		円墳である。石室には赤彩がよく残っている。6世紀前半の築造と考えられる。
		あげみぞてんじんづかこふん 上溝天神塚古墳 (松尾上溝3384他)		墳丘の全長約40m、横穴式石室を有する前方後円墳である。二重周溝を持ち、6世紀中頃の築造と考えられる。
		づかこふん おかん塚古墳 (松尾上溝2806他)		墳丘の北側半分が削られているが、もとは2つの横穴式石室を有する前方後円墳であった。現在は全長約20mの後円部とその石室のみが残っている。6世紀後半の築造と考えられている。
		みさじろししづかこふん 水佐代獅子塚古墳 (松尾水城3458他)		墳丘の全長約60mの前方後円墳であり、前方部西側と後円部北東側の一部が削られている。5世紀後半の築造と考えられる。墳丘の一部が市史跡に指定されている。
		おおつかこふん 大塚古墳 (桐林2024他)		墳丘の全長約50mの前方後円墳で、堅穴式石室を有するとされる。5世紀後半の築造と考えられている。
		つかばらふたごづかこふん 塚原二子塚古墳 (桐林3046-1他)		墳丘の全長約73mの前方後円墳で、二重周溝を持ち、5世紀末の築造と考えられる。
		かかみづかこふん 鏡塚古墳 (桐林2886-1他)		墳丘の全長約45mの帆立貝形古墳である。5世紀後半の築造と考えられている。
		よろいづかこふん 鎧塚古墳 (桐林2875-1他)		墳丘の全長約40mの帆立貝形古墳である。5世紀後半の築造と考えられる。
		おさるどうこふん 御猿堂古墳 (上川路882-1他)		墳丘の全長約65.4m、横穴式石室を有する前方後円墳である。6世紀中頃の築造と考えられ、重文の画文帯四仏四獣鏡が出土している。墳丘の一部が県史跡に指定されている。
		ませづかこふん 馬背塚古墳 (上川路284他)		現存する墳丘は全長約46.4mの前方後円墳で、横穴式石室を二つ有する。6世紀末の築造と考えられる。
名 勝	S9. 1. 22	てんりゅうきょう 天 龍 峽 (川路・龍江)	1	弘化4年(1847)、漢学者阪谷朗蘆によって命名された奇岩断崖からなる狭隘な峡谷で、兩岸のアカマツ林、サクラ、サツキ、カエデ等の草木と共に四季折々の峡谷美をなす。
特別天然 記念物 (動 物)	S30. 2. 15	ライチョウ (南アルプス)	1種	キジ科の鳥で、赤石山脈のハイマツ帯に生息する。赤石山脈は世界的に分布の南限にあたり、近年絶滅が危惧される。
〃	S30. 2. 15	カモシカ (中央アルプス・南アルプス 一帯)	1種	日本に住む唯一の野生ウシ科動物で、日本固有種である。東日本の山地帯から高山帯に生息する。
天然記念物 (動 物)	S11. 12. 16	しばいぬ 柴犬	1種	天然記念物に指定されている日本古来の犬種6種のうち唯一の小型犬で、日本犬の代表的犬種である。
〃	S40. 5. 12	イヌワシ	1種	日本最大級の猛禽類で近畿地方以北の山岳地帯で繁殖している。当市では赤石山脈においての確認例がある。
〃	S50. 6. 26	ヤマネ (標高500～1800mの山地)	1種	げっ歯目ヤマネ科に属する一属一種の日本特産種で世界的にも珍しい。市内では、伊那山脈及び遠山地区山間部での確認例がある。

②長野県指定

指定種別	指定年月日	名称・所在地	員数	概 要
県 宝	S45. 4. 13	ぼんしょう 梵 鐘 (下久堅南原1142 文永寺)	1口	弘安2年(1279)の銘を持つ類似型の鐘が小海町にあり、それに近い鎌倉時代後期の頃、文永寺創建当時の製作と推定される。
〃	S60. 11. 21	きゅうざこうじおみがっこうこうしゃ 旧座光寺麻績学校校舎 (座光寺2535)	1棟	木造2階建、一部3階建、入母屋造、棧瓦葺。明治7年(1874)の建築で、1階は歌舞伎舞台となっている。学校建築としては県下最古で、間口10間の舞台は県下最大である。
〃	S60. 11. 21	まびさしづかかぶと 眉 庇 付 冑	1領	松尾の妙前大塚古墳より出土した古墳時代の冑

		(飯田市美術博物館)		で、地金銅装で総高32cm、鉢は下底で直径20.2cm、短径18.8cm、高さ13cmである。
〃	S63.8.18	もくぞうじゅういちめんかんのりゅうぞう 木造十一面観音立像 (立石140 立石寺)	1体	高さ1.05mの一木造りの像で、平安時代の古い様式を残している。立石寺の秘仏本尊となっている。
〃	H12.3.27	しもいなしゆつど ふほんせん 下伊那出土の富本銭、 わどうかいちんぎんせん 和同開珎銀銭 (飯田市美術博物館)	2枚	天武12年(683)鑄造の我が国最古の貨幣である富本銭と和銅元年(708)鑄造された和同銀銭で、当地方が大和朝廷との深い関係にあったことを示す貴重な資料である。
〃	H16.3.29	ひらさわもんじょ 平沢文書 (飯田市美術博物館)	3800点	戦国時代から江戸時代にかけて下久堅北原の庄屋平沢家に代々伝わった古文書で、村人の生活の様子・行政担当者の資料が一括で残っている。
〃	H19.5.1	けんぼんちやくしよくきくじどう 絹本著色菊慈童 (飯田市美術博物館)	1点	明治33年(1900)菱田春草26才の作で、日本画の革新を目指した朦朧体画風の代表作である。日本美術院の絵画共進会に出品した大作である。
〃	H22.10.12	もくぞうだいもんぜんじざぞう 木造大鑑禪師坐像 (上川路1000 開善寺)	1体	禅僧清拙正澄の坐像で、高さ72cmのヒノキの寄せ木造りで、表面の文様などから鎌倉・南北朝時代の作と推定される。
〃	H28.3.17	あみだによらいざぞう 阿弥陀如来坐像 (箕瀬町1丁目2464-1 柏心寺)	1体	像高51.8cmの木造漆箔の像で、鎌倉時代前半期の作とされる。運慶・快慶の流派である慶派仏師の作風の影響を受けている。
〃	R4.9.20	しなののくにいじょうかまちえず 信濃国飯田城下町絵図 (下伊那教育会)	1点	江戸時代初期脇坂氏藩主時代の飯田城ならびに城下町の姿を薄い彩色で描いた絵図で、堀氏に引き継がれた。
選択 無形民俗 文化財	S38.2.11 選択	いまだにんぎょう 今田人形 (今田人形座)	1	飯田市無形文化財の項を参照。
〃	S28.2.11 選択	くろだにんぎょう 黒田人形 (黒田人形保存会)	1	飯田市無形文化財の項を参照。
〃	S58.7.13 選択	あじ ふんかざい 味の文化財 (県内一円)	1	御幣餅、野沢菜漬け他、長野県における伝統的な食文化の代表事例である。
〃	H12.3.15 選択	いいだしすき さばずし 飯田市伊豆木の鯖鮓 (伊豆木)	1	10月7日の八幡宮祭典に奉納される姿鮓と家庭で食べられるチラシ鮓がある。伊豆木小笠原初代長巨が上方に出陣した際の兵糧食といわれる。
〃	H12.3.15 選択	みなみしんじゅう ゆべし 南信州の柚餅子 (南信濃他)	1	味噌・米粉・うどん粉・砂糖・クルミなどをまぜ、柚子の実の汁を加えて蒸した菓子である。
〃	H13.3.15 選択	きそ ほおぼまき 木曾の朴葉巻・ しもいななんぶ ほおぼもち 下伊那南部の朴葉餅 (上村他)	1	米の粉を捏ねた皮で小豆の餡を包み、朴の葉でくるんで蒸し上げたもの。
〃	H14.3.15 選択	とやおまごう にどいも みそでんがく 遠山郷の二度芋の味噌田楽 (上村・南信濃)	1	二度芋はじゃがいもの在来種で、甘味があり、煮物などに使っても煮崩れない。これを味噌田楽にして炭火であぶった郷土食である。
史跡	S44.7.3	おさるどうこふん 御猿堂古墳 (上川路884-2他)	1基	国史跡の項を参照。
〃	S46.5.27	すずおかじょうあと 鈴岡城跡 (駄科1729他)	1 区域	段丘突端の平山城。室町時代、小笠原氏は家督を巡り一族内で争った。鈴岡城はその一派が拠った城で、松尾城主などと対立した。
〃	S47.10.16	まつおじょうあと 松尾城跡 (松尾代田1006他)	1 区域	段丘突端の平山城。室町時代、信濃守護職松尾小笠原氏の本拠地として信濃・伊那の中心であった。
〃	H6.2.17	しろたやまきつねづかこふん 代田山孤塚古墳 (松尾代田1403-71)	1基	全長42mの前方後方墳で、4世紀代の築造と考えられる。大和王権より一足早くに東海地方勢力の影響があったことが示唆される。
〃	H25.3.25	みなみほんじょうじょうあと 南本城城跡 (座光寺1849他)	1 区域	大規模で複雑な縄張りの山城。保存状態が大変良い。文献はないが、座光寺氏の他、戦国大名の関与が考えられる。
〃	H30.9.27	ごこうじ いしかわけ 座光寺の石川除	1	文政11年(1828)～天保2年(1831)に、天竜川と南

		(座光寺 6710-2 他)	区域	大島川の合流点に築かれた石積みの堤防で、治水利水の様子をよく伝えている。
天然記念物 (動物)	S43. 5. 16	モリアオガエル ^{はんしよくち} 繁殖地 (上郷黒田3481 野底山池の平)	1 区域	日本固有種のアオガエル科の繁殖地。カエルの仲間では唯一樹上に産卵し、5月から7月にかけて泡状の卵塊を池の上の枝に産みつける。
〃	S50. 2. 24	ベニヒカゲ	1種	ジャノメチョウ科の高山蝶で、市内では木曾山脈、赤石山脈で確認される。
〃	S50. 2. 24	クモマベニヒカゲ	1種	ベニヒカゲと近縁の高山蝶で、木曾・赤石山脈では主としてダケカンバ帯の林間の草地などに生息している。
〃	S50. 2. 24	クモマツマキチョウ	1種	シロチョウ科の高山蝶で、中部山岳地域に生息し、赤石山脈では中腹の沢沿いに分布する。
〃	S50. 2. 24	ミヤマシロチョウ	1種	シロチョウ科の高山蝶で、亜高山帯に生息し、伊那谷では赤石山脈の中腹に広く分布するが、絶滅が危惧される。
〃	S50. 2. 24	オオイチモンジ	1種	タテハチョウ科の高山蝶で、本州中部と北海道に分布するが、本州では局所的で、赤石山脈にもわずかに記録がある。現在の生息状況は不明である。
〃	S50. 11. 4	ホンシュウモモンガ	1種	日本特産のリス科の小動物で、本州・四国・九州に分布し、市内の山間部に広く分布していたが、近年激減している。
〃	S50. 11. 4	ホンドオコジョ	1種	イタチ科の小動物で、中部地方以北の山岳地帯に生息し、伊那谷では木曾・赤石山脈の主として亜高山帯以上の地域に生息する。
〃	S60. 7. 29	ブッポウソウ	1種	ブッポウソウ科の鳥で、東南アジア地域から、夏鳥として渡来する。飯田市では遠山谷で確認されている。
(植物)	S40. 4. 30	やまもと 山本のハナノキ (山本6771)	1本	カエデ科、雌雄異株の日本固有種で、生存環境が限られる。本件は分布北限に位置する樹高30m、胸高周囲4.8mある大木である。
〃	S42. 5. 22	おさひめ 長姫のエドヒガン (飯田市美術博物館敷地内)	1本	エドヒガンは他の桜より一足早く咲く。本件は樹高20m、胸高周囲5.4mで幹が雄々しい。飯田藩家老安富家にちなんで「安富桜」ともよばれる。
〃	S43. 3. 21	かわじ 川路のネズミサシ (川路4693)	1本	ヒノキ科の針葉樹で、本件は樹高18m、胸高周囲3.5mの直立した樹形であり、この種では県内で随一の巨木である。
〃	S43. 5. 16	かさこしやま 風越山のベニマンサクの 自生地 (上飯田6999他)	1 区域	マンサク科の日本固有種の自生地。標高600m～1400mに群生する。暖地性の植物で分布の東北限にあたる。
〃	S43. 5. 16	たていし お め 立石の雄スギ雌スギ (立石502・659)	2本	地区の中央に約400m離れてそびえる杉の巨木で、胸高周囲は、雄スギ9.8m、雌スギ9.0m。樹高は雄スギ44.5m、雌スギ44.0mにのぼる。
〃	H26. 9. 25	いだいじょうさくらのみる 飯田城桜丸のイスノキ (長野県飯田合同庁舎敷地内)	1本	伊豆地方以南に自生するマンサク科の常緑高木で、暖地性だが旧飯田城桜丸に残されており、大変に珍しい。
(地質)	S51. 3. 29	みついし おうけつぐん 三石の甌穴群 (下久堅知久平690他)	1	川底や川岸の岩盤にできた円形の穴で、往時の天竜川の河蝕作用とその後の地盤隆起等を示す地学上の貴重な資料である。
(地質鉱物)	R1. 10. 24	とおやまがわ まいぼつりん まいぼつじゅ 遠山川の埋没林と埋没樹 (南信濃小道木・大島ほか)	2 区域 2本	奈良時代に発生した遠江地震に伴う土砂崩れにより遠山川に天然ダムが作られ、土石とともにダム内の土砂に混じった倒木が埋没樹、ダム湖沿いの原生林が水没・埋没したものが埋没林となった。古代の災害のようすを今に伝えている。

③飯田市指定

指定種別	指定年月日	名称・所在地	員数	概要
有形文化財 (絵画)	S43. 11. 19	ひしだしゅんそう しろ ねこ 菱田春草の「白き猫」 (飯田市美術博物館)	1幅	春草27才の作品で、明治34年(1901)、の帰郷後に東京へ戻り、1か月後に完成させて春草が母校

有形文化財 (絵画)	H13. 8. 21	けんぼんちやくしよくしょうとくたいしえでん 絹本著色聖徳太子絵伝 (飯田市美術博物館)	5幅	へ寄贈した。 鎌倉末～南北朝時代の製作で、宮ノ上太子堂に伝来した。損傷は大きいが聖徳太子絵伝の古様を示している。
〃	H19. 11. 21	けんぼんちやくしよくあみだによらいぞう 絹本著色阿弥陀如来像 (飯田市美術博物館)	1点	室町時代の作とされ、当地方の現存最古例で、全国でも古い作品である。立石の雌杉の下にあった杉の堂に伝来し、その跡地の個人宅に保管された。
〃	H20. 3. 25	しんしゅういなぐんのえず 信州伊奈郡之絵図 (飯田市美術博物館)	1点	江戸時代初期正保年間に、江戸幕府が諸国に提出を命じた郡の絵図の副本とみられる。上・下伊那郡の様子を描いた最古で詳細な絵図として貴重。
〃	H23. 7. 20	ひだしゆんそうひつ ぶぐ ず 菱田春草筆「武具の図」 (飯田市美術博物館)	1面	東京美術学校時代の作品で、大和絵の伝統を学びながら、写実性があらわれ学習の成果が見える。春草会が最も早くに所蔵した春草作品である。
〃	H23. 7. 20	ひだしゆんそうひつ れいしょうによ 菱田春草筆「霊昭女」 (飯田市美術博物館)	1幅	日本美術院の第16回絵画互評会で二等を受賞した作品で、重文「王昭君」と共通する表現が随所に見られる。
〃	H23. 7. 20	ひだしゆんそうひつ しか 菱田春草筆「鹿」 (飯田市美術博物館)	1幅	第10回日本美術院連合絵画共進会で銀章となった作品で、写実性に主眼を置く朦朧体後期の画風をよく示す。
〃	H23. 7. 20	ひだしゆんそうひつ ゆうべ もり 菱田春草筆「夕の森」 (飯田市美術博物館)	1幅	滞米期に描かれたことが明確な作品で、春草の米欧遊学期の作風をよく示し、この時期を代表する。
〃	H23. 7. 20	ひだしゆんそうひつ よざくら 菱田春草筆「夜桜」 (飯田市美術博物館)	1幅	美術博物館開館にあわせて、菱田家から飯田市へ寄贈された作品で、滞米期の作品と伝えられている。
〃	H23. 7. 20	ひだしゆんそうひつ きしょう 菱田春草筆「帰樵」 (飯田市美術博物館)	1幅	米欧から帰国後間もなくして描かれた作品で、朦朧体の空間性と鮮やかな色彩が両立し、朦朧体研究の成果が表れる。
〃	H23. 7. 20	ひだしゆんそうひつ しゆんじゅう 菱田春草筆「春秋」 (飯田市美術博物館)	双幅	装飾性のある作風が結実し、春草が高い評価を得た時期の作品で、重文「黒き猫」の作風に通ずる。
〃	H30. 7. 18	ひだしゆんそうひつ 菱田春草筆 かまくらじだいとうぎゅう ず 「鎌倉時代闘牛の図」 (飯田市美術博物館)	1幅	東京美術学校時代の作品で、大和絵の伝統を学びながら、写実性があらわれた学習の成果が見える。現存する春草作品では最も早い受賞作である。
〃	R1. 6. 12	ひだしゆんそうひつ ぶかく 菱田春草筆「富嶽」 (飯田市美術博物館)	1幅	朦朧体の画風を示すが、米欧遊学で印象派等の影響を受けた春草が色彩研究を重ね、朦朧体から装飾性重視の画風へと向かう移行期の画風を伝える作品である。
〃	R3. 9. 17	ひだしゆんそうひつ うちゅうびじん 菱田春草筆「雨中美人」 (未完成) (飯田市美術博物館)	屏風 六曲 一双	春草死去前年、文展への出品を意図して描かれたが未完に終わった。「賢首菩薩」「落葉」「黒き猫」と共通した作風で、春草の作風が装飾的傾向に移った時期の人物画を垣間見ることのできる作品として重要である。
(典籍)	H23. 7. 20	ひだしゆんそうしよかん ひしだけあて 菱田春草書簡 菱田家宛 (飯田市美術博物館)	69通	下伊那教育会所蔵の書簡で、春草が父や兄など親族に宛てたものであり、春草研究に欠かせない資料である。
(工芸品)	S46. 3. 15	ほうぜんじ ほんしやう 法全寺の梵鐘 (千代3268 法全寺)	1口	永享11年(1439)に鑄造されたもので室町時代の特徴をよく示している。
〃	S46. 3. 15	りっしやくじ ほんしやう 立石寺の梵鐘 (立石140 立石寺)	1口	室町時代の嘉吉3年(1446)に鑄造されたもので、当時の特徴をよく示している。
〃	S46. 3. 15	じょうけいじ うんぼん 定継寺の雲板 (龍江2372 定継寺)	1口	雲板とは、禅宗寺院で食事や起床の合図に叩かれる梵音具をいう。本件は永享2年(1430)の陰刻があり、室町時代の特徴を示している。
〃	S47. 5. 11	おばやしこやう こまいぬ 尾林古窯の猫犬 (飯田市美術博物館)	3体	慶長14年(1609)作の銘がある。高さ15cmの陶製で、県内最古の近世陶器である。

		はとがみねはちまんぐうししがしら 鳩ヶ嶺八幡宮獅子頭 (飯田市美術博物館)	1頭	檜製の古式の獅子頭で、高さより奥行きが長く扁平な箱形をしており、室町時代初期の特徴を示す。
(彫刻)	S53.12.1	しよかおほんぞう 釈迦涅槃像 (座光寺2638 元善光寺)	1体	像長155cmの寄木造りの像で、江戸前期の作と推定される。釈迦入滅の場面を示している。
	H18.10.18	きしんめん 鬼神面 (南信濃和田1192 遠山郷土館 和田城)	1面	般若面が成立する以前の南北朝から室町初期の作と推定され、県内屈指の古面として貴重である。南信濃木沢青龍寺所蔵。
	H18.10.18	きしんめん 鬼神面 (南信濃和田1192 遠山郷土館 和田城)	1面	鎌倉時代から南北朝時代の作と推定され、県内最古の古面として貴重である。南信濃木沢八幡神社所蔵。
	H18.10.18	きしんめん 鬼神面 (飯田市美術博物館)	1面	鎌倉時代から桃山時代の作とみられ、八幡宮に付属した神宮寺に関わりがある。鳩ヶ嶺八幡宮所蔵。
	H18.10.18	ぼさつめん 菩薩面 (飯田市美術博物館)	1面	鳩ヶ嶺八幡宮所蔵の面で、室町時代の作と考えられる。神宮寺に所属し、行道面として使用された。
	H31.4.12	たつえおたいらやくしにょらいりゅうぞう 龍江大平薬師如来立像 (龍江7533-1 大平薬師堂)	1体	霊木化現の様相を呈する薬師如来立像で、10世紀代に制作されたと推定される。
	R3.3.12	りつじやくじもくぞうてんぶぎょうりゅうぞう 立石寺木造天部形立像 (立石140 立石寺)	1体	像高95.1cmのカツラー木造りの天部形立像で、広目天と伝わり、10世紀後半の作とみられる。
	R3.3.12	あみだじもくぞうあみだにょらい 阿弥陀寺木造阿弥陀如来 坐像 (丸山町2丁目6728 阿弥陀寺)	1体	像高43.3cmのヒノキ木割削造の阿弥陀如来坐像で、円派系仏師の作風を持つ。12世紀後半から13世紀前半の作とみられる。
(考古資料)	H6.2.18	もくたんかん くらだがいといせきしゅつど 木炭棺(黒田垣外遺跡出土) (飯田市考古博物館)	1基	弥生時代後期の方形周溝墓の遺骸埋葬施設である。板状の炭化材で囲む構造になっている。
	H24.6.14	みぞぐち つかこふんしゅつどひん 溝口の塚古墳出土品 (飯田市考古博物館)	1括	竪穴式石室および墳丘、周溝から出土した武具類、玉類、埴輪、土器などで、甲冑は埋葬者と大和政権との関係性を示している。
	H24.6.14	みやがいのいせき どこう しゅつどひん 宮垣外遺跡 土坑64出土品 (飯田市考古博物館)	1括	宮垣外遺跡から出土した馬具類で、古墳時代に馬の飼育・生産を通して、ヤマト王権と密接につながっていたことを示している。
	H25.8.9	ごんがいせきぐんしゅつどひん 恒川遺跡群出土品 (飯田市考古博物館・飯田市 美術博物館)	1括	古代伊那郡衙の存在を示す恒川遺跡群の出土遺物110点。「厨」墨書土器や数多くの陶硯、瓦類がある。
	H26.12.15	いいたこふんぐんぼひつかんれんいぶつ 飯田古墳群馬匹関連遺物 (飯田市考古博物館)	1括	飯田古墳群から出土した轡、杏葉等の馬具類。飯田地域の馬匹文化の受容の実態を示す。
(建物)	S49.7.25	あみだじ せんたいぶつかんのんどう 阿弥陀寺の千体仏観音堂 (丸山町2丁目6728 阿弥陀寺)	1棟	方2間の宝形造瓦葺、寛文12年(1672)飯田城主脇坂安政の建立とみられ、江戸前期の古い様式が残る。
	S51.11.29	はとがみねはちまんぐうほんでん 鳩ヶ嶺八幡宮本殿 (八幡町1999鳩ヶ嶺八幡宮)	1棟	木造三間社流造で、飯田城主脇坂氏によって、江戸時代前期の寛文2年(1662)頃に建立された。
	S60.11.20	いいたじょうさくらのまるごもん 飯田城桜丸御門 つうしょう あかもん (通称 赤門) (長野県飯田合同庁舎敷地 内)	1棟	飯田城桜丸の入口に現存する、正面3間、側面3間の入母屋造りの門で、ベンガラ塗りのため赤門と呼ばれる。宝暦4年(1754)の建立である。
	S60.11.20	はくさんしやずいしんもん 白山社隨身門 (滝の沢6684 白山社)	1棟	高さ11m、奥行き4m、間口7mの唐破風三間楼門造り、文政11年(1828)の建造で、多様で絢爛な彫刻が施されている。総檜造り。
(建物)	S63.6.1	はりのきまげんしよあと 梁木島番所跡 (南信濃八重河内998)	1棟	満島番所とともに秋葉街道に置かれた関所で、慶長19年(1614)遠山景直が一族を置いたことに始まり、天明7年(1787)に現在地に移転した。
	H3.9.21	こうらんじ ちかんもん 耕雲寺の羅漢門 (座光寺1708 耕雲寺)	1棟	寛政7年(1795)建立、上層が高い二重門で、入母屋造・棧瓦葺き、当地域では珍しい竜宮門形式で

				上層の組物や彫刻の意匠も優れている。
"	H4. 2. 24	けがすわじんしゃほんでん 毛賀諏訪神社本殿 (毛賀885 毛賀諏訪神社)	1棟	一間社流造、銅板葺(元こけら葺)で、木割りや彫刻に立川流の作風がみられる。文化12年(1815)建立された。
"	H5. 9. 28	はくしんじさんもん 柏心寺山門 (箕瀬町1丁目2464-1 柏心寺)	1棟	一間四脚門、切妻造、棧瓦葺、寛文10年(1670)以前の江戸前期の建立で、装飾などに桃山様式が残されている。
"	H6. 2. 18	きょうぞうじさんもん 経蔵寺山門 (上郷別府1768 経蔵寺)	1棟	飯田城桜丸にあった安土桃山時代創建の薬医門で、宝暦年間に現在の赤門が建てられるに際して移築した。
"	H7. 10. 18	かんのみねひさかたじんしゃけいだい 神之峰久堅神社境内 てんじんしゃほんでん 天神社本殿 (上久堅8168 久堅神社)	1棟	享保16年(1731)建造、小規模な一間社流造、こけら葺の社殿で、県内でも例の少ない個性の強い建築である。
"	H10. 6. 23	うんしょうじしょうろうもん 運松寺鐘楼門 (鼎名古熊1914 運松寺)	1連	享保20年(1735)建立された市内最古の鐘楼門で、18世紀の簡素な建築様式をよく示している。
"	H10. 11. 27	きゅういだいじょう はつけんもん 旧飯田城の八間門 (松尾久井2595-1)	1棟	桁行5間、梁行4間、2階建、切妻造、棧瓦葺の、三間一戸檜門。文禄年間(1592~1596年)建立された現存する飯田城最古の遺構で、飯田城廃城に伴い現在の場所に移築された。
"	H12. 11. 22	ちようせきじほんどう 長石寺本堂 (時又329 長石寺)	1棟	方3間、入母屋造、棧瓦葺。明治3年(1870)の再建で、立川流の直系が請負った最後の大規模建築といわれる。
"	H15. 7. 17	いずきてんまんぐうかくらでん 伊豆木天満宮神楽殿 (伊豆木619-2 伊豆木天満宮)	1棟	明治11年(1879)再建された、間口6間、奥行3間半、屋根は切妻造、棧瓦葺の人形舞台と歌舞伎舞台の併用舞台。
"	H15. 12. 25	はくさんしゃおくしゃへいでん 白山社奥社幣殿 はいでん ずいしんもん 拝殿、隨身門 (風越山山頂 白山社)	2棟	拝殿は本殿(重文)の正面に続き屋根の一部は向拝とつながり、向拝は本殿の扉などに描かれた絵を保護している。隨身門も含めて江戸中期に建てられたものとみられる。
"	H18. 4. 10	ふくしまけじゅうたく 福島家住宅 (本町4丁目53)	2棟	江戸後期築造の飯田藩士の住居で、門・塀・主屋が揃って現地に残る唯一の武士住宅遺構である。
"	H20. 3. 25	はとがみねはちまんぐうずいじんもん 鳩ヶ嶺八幡宮随神門 (八幡町1999 鳩ヶ嶺八幡宮)	1棟	彩色された八脚門で、意匠的に優秀で大工の技術も高く、江戸時代中期の様式をよく示している。
"	H20. 11. 18	きゅうたきざわいん 旧瀧澤医院 (下久堅虎岩734-1)	1棟	明治28年(1895)竣工の木造2階建擬洋風の病院建築で、明治期の病院建築で現存するものは少なく、全国的にも貴重な建造物である。
"	H20. 11. 18	はくさんしゃさとみやはいでん 白山社里宮拝殿 きゅうごまどう 「旧護摩堂」 (滝の沢6684 白山社)	1棟	享保18年(1733)に建てられた白山寺の護摩堂で、廃仏毀釈での破壊を白山社の拝殿として免れた。
"	H22. 8. 20	きゅういだいじょう さくらのまるにしもん 旧飯田城の桜丸西門 うんさいじさんもん (雲彩寺山門) (上郷飯沼3335 雲彩寺)	1棟	桜丸(現県合同庁舎)の西側の門とされる薬医門で、18世紀前半の建立と推定される。大正10年頃雲彩寺に寄進された。
"	H22. 11. 22	きゅういだいばんばちょうれんじょうもん 旧飯田藩馬場調練場の門 つうしやう わきざかもん (通称 脇坂門) (馬場町3丁目411)	1棟	旧飯田藩馬場調練場にあったとされる寛政期頃の門で、明治2年に追手町、平成25年に現在地に移転した。
(石造物)	H21. 7. 22	かみくろだ ごりんとう 上黒田の五輪塔 (上郷黒田3445-1)	1基	高さ128cm、最大幅49cmの大型の五輪塔であり、石材は花崗岩で梵字は刻まれていない。南北朝末期から室町前期のものと考えられる。
"	H24. 3. 21	ちよ よねがわ いたび 千代(米川)の板碑 (飯田市美術博物館)	1基	飯田市内では文永寺の石室・五輪塔に次いで古い永仁2年(1294)の記年銘を持つ石造物で、鎌倉時代中期の武蔵型板碑の特徴をよく示している。

(石造物)	R2. 1. 16	なかむらはちまんしゃ 中村八幡社の せきぞうこまいぬいつい 石造狛犬一対 (中村1800-1 中村八幡社)	1対	延宝6年(1678)銘がある市内最古の石造狛犬。元禄14年(1701)の本殿と一体となって現存する例は市内にない。
無形文化財	S43. 11. 19	だいまりょうぎょうれつ 大名行列 (本町3丁目)	1式	大宮神社の式年祭に演じられ、江戸時代の大名行列の所作をよく伝承している。
〃	H2. 11. 14	いまだにんぎょうしばい 今天人形芝居 (今天人形座)	1式	三人遣いの人形浄瑠璃で、宝永元年(1704)より伝わるとされる。
〃	H6. 2. 18	くろだにんぎょうしばい 黒天人形芝居 (黒天人形保存会)	1式	三人遣いの人形浄瑠璃で、元禄年間(1688～1704)より伝わるといわれる。人形の操法に手と呼ばれる古い型を伝える。
民俗文化財 (民俗・芸能・ 娯楽・遊戯・嗜好 に用いられるもの)	H6. 2. 18	あやつりにんぎょう ぶけおやま かしら 操人形「老女形の首」 (黒天人形)	1個	元文2年(1737)作で、製作年の判明する操人形首としては国内最古のものである。
(信仰に用いられるもの)	R4. 12. 14	りつしやくだていしがき え ま 立石寺立石柿絵馬「板絵 着色江戸柿間屋絵馬」 いた 「板 え ちやくくたていしがき しゆつかてんりゆうがわつう 絵着色立石柿出荷天竜川通 せん ま 船絵馬」 飯田市立石140番地(立石寺)	2点	現在も地域の特産品である干柿や果樹栽培の源流や、天竜川を利用した物資輸送の様子や周辺の地勢の様子が描きだされている貴重な絵画史料である。立石寺所蔵。
(民俗技術)	H28. 7. 14	てんりゆうがわ ふなくだ 天竜川の舟下り (松尾新井7170 信南交通株式会社・ 龍江7115-1 天龍ライン遊舟有限公司)	1	現在までおよそ100年続く観光川下り舟。伝統的な造・操船技術を今に伝える。名勝天龍峡を楽しむためのもともすぐれた手段であり、これを題材に多くの文学作品が生まれた。
(風俗習慣)	H10. 11. 27	かみおく ことの神送り (上村上町)	1式	2月8日前後の日曜に行われる。禰宜や村人が太鼓や鉦の囃子に合わせて謡い、悪疫を村から外に追い出す。
(民俗芸能)	H10. 11. 27	ごいらいぼう 御祝棒 (上村上町)	1式	前年に結婚した夫婦の家へ子どもたちが訪れ、子孫繁栄・五穀豊穰を願い、男性を象った棒で縁側を叩いて祝う。
〃	H10. 11. 27	せいちょう えじま 正調「絵島」 (上村)	1式	江戸で流行した絵島節が、高遠から伝えられ、秋葉街道の宿々で唄い継がれたが、現在では上村にのみ盆踊り唄として残る。
〃	H10. 11. 27	しもぐりかけおど 下栗掛踊り (上村下栗)	1式	8月15日の午後に行なわれる。はやしと唄にあわせて踊る雨乞い踊りと念仏踊りで、370年ほど前から伝わるといわれている。
〃	H10. 11. 27	なかごうししまい 中郷獅子舞 (上村中郷)	1式	悪疫・飢饉・その他の災害を逃れ、その年の安泰を祈願するために、獅子の太神楽舞を氏神様に奉納する。
〃	H11. 12. 22	このたかぐら 此田神楽 (南信濃八重河内)	1式	約280年前愛知県新城から伝えられたといわれる、伊勢神楽の流れをくむ獅子神楽である。
史 跡	S43. 11. 19	かんこうていひ 観耕亭碑 (追手町2丁目641 長姫神社境内)	1基	石碑の撰文は安積信、書は高橋豊桂が担当し、安政6年(1859)に建てられた。飯田藩主の徳を讃えるもので、内容・筆跡ともに優れている。
〃	S43. 11. 19	にちじゆしょうにんはか 日樹上人墓 (羽場権現1190-9 元山白山神社境内)	1基	五輪石塔で、寛永20年(1643)の日樹上人13回忌に仰円院日利により建立された。
〃	S46. 3. 15	いいたはんしゆほりけ ぼしよ 飯田藩主堀家の墓所 (諏訪町4166 長久寺)	1 区画	飯田藩6代藩主堀親蔵、9代親民、11代親義3基の笠塔婆のほか、藩主の妻や一族の墓がある。
〃	S47. 5. 11	かん みねじょうあと 神の峰城跡 (上久堅8166-3他)	1 区域	旧族知久氏の居城で、峻嶮な山城である。天文23年(1554)に武田氏の下伊那那侵攻により落城した。
〃	S47. 11. 2	はくいんせき 白隠石 (竹佐345-1)	1基	宝暦7年(1757)に白隠禅師が73歳で当地方を訪れた際に、山本地区の村人の要請により自然石

				に揮毫された立派なもの。
史跡	S60.6.20	しちちやや どうひょう 下茶屋の道標 (鼎下茶屋994-6)	1基	宝暦10年(1760)に設置。遠州街道と伊久間街道の分岐点で秋葉街道の方向を示している。
〃	S60.6.20	やわた どうひょう 八幡の道標 (八幡町1971-1)	1基	宝暦10年(1760)に設置。下条街道と秋葉街道の分岐点である鳩ヶ嶺八幡宮前に位置する。
〃	S63.6.1	とおやまとさのかみいちぞくぼひ 遠山土佐守一族墓碑 (南信濃和田1198 龍淵寺)	1 区画	龍淵寺境内にある遠山一族の墓所で、土佐守景直とその子加兵衛景重の墓碑がある。
〃	H8.10.29	ちくだいらじょうあと 知久平城跡 (下久堅知久平714-2他)	1 区域	神の峰に移る前の知久氏居城の平山城。天正十年代に徳川家臣菅沼氏が普請し、その縄張が反映されている。
〃	H11.12.22	あおくずれとうげ 青崩峠 (南信濃八重河内)	1 区画	信濃と遠江の国境にある峠で、秋葉街道の往時の姿をわずかにとどめる。
〃	H12.11.12	みきじろ みきじろししづかごふん 水城の水佐代獅子塚古墳 (松尾水城3457他)	1基	国史跡の項を参照。
〃	H15.12.25	かごこしやまはくさんしやおくしやけいだい 風越山白山社奥社境内地 (風越山山頂)	1 区画	風越山は古来より信仰の対象で、山頂付近(標高約1490m)に建立された白山社奥社と参道周辺には神仏習合の石造物等が点在している。
〃	H20.11.18	あぜちいちごうこふん 畦地1号古墳 (座光寺3296-4)	1基	南北方向19.8m・高さ5.5mの円墳で、6世紀前半の築造。横穴式石室や出土遺物から朝鮮半島からの影響が考えられる。
天然記念物 (植物)	S43.11.19	はば おおひらぎ 羽場の大栂 (羽場町3丁目18-6)	1本	モクセイ科の常緑広葉樹で、本件は胸高周囲3.4m、中央自動車道建設に伴い昭和45年4月10日に現在の位置に移植された。
〃	S46.3.15	たつえおやしき 龍江大屋敷の イワテヤマナシ (龍江9637-1)	1本	東北地方原産の北方種で、南限として貴重なものである。胸高周囲2.6m、樹高15mにおよぶ。
〃	S47.5.11	しょうえいじばら いちょう 正永寺原の公孫樹 (正永町2丁目1499-3)	1本	中国が原産で、薬用として伝来したとされる。本件は胸高周囲5.8m、樹高40mで、かつての正永寺境内にある。
〃	S48.12.25	あたごじんじゃ せいしゅうざくら 愛宕神社の清秀桜 (愛宕町2781 愛宕神社)	1本	清秀法印が仁治年間(鎌倉時代)に手植したとされる。胸高周囲6m、樹高約10mの紅彼岸桜で、当地方で最古と考えられる。
〃	S60.6.20	とりやどうし き 鳥屋同志のカヤの木 (大瀬木 3530 旭ヶ丘中学校)	1本	イチイ科の常緑針葉樹で、種子は食用になる。本件は旭ヶ丘中学校敷地内にあり、胸高周囲4.0m、樹高20mの巨木である。
〃	S60.6.20	かなえいつしき おおすぎ 鼎一色の大杉 (鼎一色 15 一色諏訪神社)	1本	スギ科の日本固有種で、本件は一色神社の社叢中にあり、胸高周囲約4.9m、樹高40mの大木である。
〃	S63.6.1	とおやまとさのかみいちぞくぼひうらかたすぎ 遠山土佐守一族墓碑裏方杉 の木 (南信濃和田1198 龍淵寺)	4本	龍淵寺境内にある遠山一族の墓所裏手にある杉の老木である。4本の巨木が並んでそびえている。樹高約50m。
〃	H2.1.17	あみだじ 阿弥陀寺のシダレザクラ (丸山町2丁目6728 阿弥陀寺)	1本	枝垂れ桜は、枝が柔らかく垂れるサクラの総称。本件は千体仏観音堂前面にあり、胸高周囲4.2m、樹高15.0mで、樹勢・樹形とも良好な古木である。
〃	H3.3.15	ちよ 千代のアベマキ (千代1252-2)	1本	ブナ科のクヌギに似た落葉広葉樹で、本件は胸高周囲3.9m、樹高約16.0mで、本樹種としては巨木である。
〃	H7.10.18	さがさか そうじせいち 嵯峨坂ざぜん草自生地 (下久堅 嵯峨坂)	1 地域	サトイモ科の多年草で、湿地を好み早春に花をつける。本件は市内最大の自生地で、500株余りが自生する。
〃	H8.10.29	まんご とち き 万古の栃の木 (千代法全寺万古)	1本	トチノキ科の落葉高木で、樹高25m、胸高周囲8.7mで、栃の木としては当地方屈指の巨木である。

天然記念物 (植 物)	H12. 11. 22	みさじろししづか 水佐代獅子塚のエドヒガン (松尾水城3457)	1本	胸高周囲5.0m、樹高約17mで、水佐代獅子塚古墳 墳丘上にあり、「おたちふの桜」とも呼ばれる。
〃	H12. 11. 22	おうばいいん べに さくら 黄梅院の紅しだれ桜 (江戸町3丁目251 黄梅院)	1本	胸高周囲5.5m、樹高約18mで、紅色の濃い花に特 徴がある。
〃	H12. 11. 22	けが 毛賀くよとのシダレザクラ (毛賀685)	1本	胸高周囲3.8m、樹高約15mで、その名称は供養塔 からの転訛と考えられる。
〃	H14. 7. 12	せんげんづか いっほんすぎ 浅間塚の一本杉 (上郷黒田4233)	1本	胸高周囲4.2m、樹高約22mで、表日本型の杉樹形 を顕著に示している。
〃	H15. 12. 25	りつしやくじまゑ 立石寺前のシダレザクラ (立石97-5)	1本	胸高周囲3.5m、樹高8mの老木ではあるが、春 先には美しい花をつける
〃	H20. 3. 25	かざおれ 風折のエノキ (上村 風折)	1本	ニレ科の落葉高木で、胸高周囲5.6mと市内では 巨樹であり、岩上に生えているため根が板状に 発達している。
〃	H21. 3. 23 H29. 3. 10 (追加指定)	まるやま わせあかなし 丸山の早生赤梨 (滝の沢6994)	3本	推定樹齢約120年で、梨の栽培樹としては伊那谷 で最も古く、飯田下伊那の梨栽培の原点となっ た梨の木である。
〃	H23. 3. 22	おみ さとぶたいざくら 麻績の里舞台桜 (座光寺2535)	1本	樹高12m、幹周4mのエドヒガンの枝変りの枝垂 桜で、花卉数が不安定で5から10枚の変異があ る。
(植物など)	H15. 12. 25	かごこしやまさんちよう りん 風越山山頂のブナ林・ ミズナラ・イワウチワ 等の 自生地及び花崗岩露頭 (風越山山頂)	1 地域	風越山頂に残るブナ林とミズナラの混生林で、 植林が進み市内でもブナ林は少ない他、イワウ チワ等希少種の自生地であり、また花崗岩の巨 石が造る風穴がある。
動 物	H1. 1. 31	ギフチョウ たまご ようちゅう 「卵・幼虫・さなぎ成虫」 (飯田市全域)	1種	アゲハチョウ科の日本固有種で、桜の咲く頃に 出現する。幼虫はヒメカンアオイ・ウスバサイ シンを食す。市内生息のギフチョウは翅紋の黒 帯が広いという形態的な特徴がある。
地質鉱物	H30. 12. 14	ちゅうおうこうぞうせんほどのろとう 中央構造線程野露頭 (上村16-47)	1 箇所	中央構造線の露頭で、水平・垂直方向のズレを 観察することができる。 破砕帯の状況から現在も活断層であると判明し ている。
〃	H30. 12. 14	なかごうながれみやのいわ 中郷流宮岩 (上村413-3)	1個	御池山から崩落してきた巨大な岩塊で、褶曲構 造をはっきり見ることができる。2億年以上前に 遠洋で堆積した地層が3000m級の山脈に成長す る過程を身近で観察できる。

④国認定

指定種別	指定年月日	名称・所在地	員数	概 要
重要美術品 書 籍	S10. 5. 10 認定	たかやまひこくろうにつき 高山彦九郎日記 (個人蔵)	3巻	幕末の志士高山彦九郎が安永7年(1778)3月18日 より6月24日までの100日間を綴った日記である。
〃	S15. 2. 23 認定	ごならてんのうしんかんにようぼうほうしよ 後奈良天皇宸翰女房奉書 (下久堅南原1142 文永寺)	1通	女房奉書とは天皇の考えを女官が独自の字配り 「女消息体」で書いたもので、太元修法を行な うよう書かれている。紙本墨書。
〃	S15. 2. 23 認定	ごならてんのうしんかんおんかいし 後奈良天皇宸翰御懐紙 (下久堅南原1142 文永寺)	1幅	宸翰とは天皇自筆のこと。天皇の和歌で文永寺 宗然が宮中で太元帥修法を修めた際に与えられ たと伝わる。紙本墨書(詠春色浮水国歌)。
〃	S15. 2. 23 認定	おおさまちてんのうしんかんにようぼうほうしよ 正親町天皇宸翰女房奉書 (下久堅南原1142 文永寺)	1通	文永寺の本山京都理性院の国家鎮護と国土豊穰 の祈禱を褒めたもの。紙本墨書(太元八臂像)。
彫 刻	S22. 10. 1 認定	もくぞうじゅういちめんくわんたつたつ 木造十一面観音立像 (立石140 立石寺)	1体	長野県宝の項を参照。
〃	S24. 4. 13 認定	もくぞうやくしにょらいざざう 木造薬師如来座像 (久米311 光明寺)	1体	像の高さ85cmで、保延6年(1140) 3月3日の墨書 がある。

建造物	S23.10.1 認定	鐘楼 (上川路1000 開善寺)	1棟	瓦葺、入母屋造りで、室町時代の作といわれている。
〃	S24.5.28 認定	門(旧飯田城八間門) (松尾久井2595-1)	1棟	飯田市有形文化財の項を参照。
〃	S24.5.28 認定	経蔵寺山門 (上郷別府1768 経蔵寺)	1棟	飯田市有形文化財の項を参照。

(4) 文化財関係施設

① 飯田市考古博物館 (秀水美人画美術館併設)

平成5年5月開館

令和4年4月1日、飯田市上郷考古博物館から名称変更

[所在地] 飯田市上郷別府 2428 番地 1 敷地面積 5,031 m²

[構造] 鉄筋コンクリート造 地上1階、地下1階 建築面積 1,156.50 m²

[開館] 1/4 から 12/28、ただし毎週月曜日と祝祭日の翌日は休館
9:30 から 17:00

[観覧料] 大人 200 円、高校生 150 円、小中学生 100 円

団体 (20 人以上) 大人 160 円、高校生 120 円、小中学生 80 円

[付属施設] 秀水美人画美術館 木造平屋建 173.90 m²

浅井秀水氏から建物と作品の寄贈、平成4年11月2日開館

入館者数 (令和4年度)

(人)

	個人	団体	減免	無料	計
一般	572	45	22	701	1340
高校生	4	0	0	0	4
小中学生	17	0	291	37	345
幼児	27	0	0	0	27
計	620	45	313	738	1,716

入館者状況

年度	人数(人)
平成30年度	1,851
令和元年度	1,771
令和2年度	1,137
令和3年度	1,358
令和4年度	1,716

令和4年度 事業報告

ア 夏休み考古塾「Enjoy古代!」 7/23~8/21

夏休みの一課題の一助になるべく、ワークショップを開催。

① 縄文土器を作ってみよう 7/24 16人

② 夏休み玉造り工房 8/7、8/21 新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止

③ 古代のお金をつくってみよう 7/31 新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止

イ 歴史探検隊 11/6 9人

ウ 考古博ワークショップ

①ぎやまん工房（とんぼ玉製作） 4/17 9人、6/2 8人、10/16 5人、2/19 9人

②古代のお金を作ってみよう 1/9 6人

エ 出前講座

①勾玉作り 7/2 17人

②飯田市考古資料館

平成31年4月1日より観覧停止。見学希望の場合は、文化財保護活用課に申し出ること。

③旧小笠原家書院(重要文化財)・小笠原資料館

ア 旧小笠原家書院



伊豆木小笠原家は、初代長巨が慶長5年(1600)に、徳川家康から信濃国伊那郡のうち10万400石を支配するよう命ぜられ、伊豆木に秣料として千石の地をたまり、居館を構えた。その一部がこの旧小笠原家書院で、元和3年(1617)の建設と伝えられていたが、昭和44年～45年の修理で、寛永初年(1624)頃に完成したことが判った。残された書院が重要文化財に指定され、昭和39年6月1日に市が取得(購入)し、現在、三穂まちづくり委員会を指定管理者としている。

平成20年度には、こけら屋根等の保存修理工事を実施した。

[指定年月日] 昭和27年3月29日

[構造及び形式] 懸造 桁行14.37m 梁間11.47m 一重入母屋造
玄関 桁行3.43m 梁間3.73m 唐破風造 総こけら葺き

[所在地] 飯田市伊豆木3942番地

イ 小笠原資料館

小笠原資料館は、小笠原家関連資料を収蔵・展示し、研究の拠点とするため平成11年10月2日に開館した。館内には伊豆木小笠原家の出自と系譜を示す系図や書状・武具、武器類を展示している。また、同家に伝わる小笠原流の秘伝書、殿様とその家族が使用した日用品などの貴重な資料が展示されている。



【旧小笠原家書院・小笠原資料館観覧者状況】

年度	有料入館者(個人)		有料入館者(団体)		有料入館者計			減 免	総 計
	大 人	小 人	大 人	小 人	大 人	小 人	合 計		
R2	242人	12人	0人	0人	242人	12人	254人	27人	281人
R3	530人	29人	77人	1人	607人	30人	637人	94人	731人
R4	734人	26人	96人	0人	830人	26人	856人	111人	967人

[開 館] 1/4 から 12/28 まで ただし毎週月曜日と祝祭日の翌日は休館

[開館時間] 3/1 から 11/30 まで 9:00 から 17:00

12/1 から翌年2月末日まで 9:00 から 16:00

[観 覧 料]

高校生又は一般	小中学生
300 (200) 円	150 (100) 円

※ () 内は 20 名以上の団体料金

④北田遺跡公園



北田遺跡は、縄文時代早期から古墳時代にかけての大規模な集落遺跡。昭和61年、この地域の農業構造改善事業を実施するにあたって、記録保存のための発掘調査を行った結果、およそ9400年前の縄文時代早期の住居址1棟、土坑2基、5000～4400年前の中期の住居址50棟、方形柱穴列址2棟、土坑77基、1700年前の弥生時代後期の住居址5棟、1300年前の古墳時代後期の住居址

18棟、6世紀後半から7世紀代の豪族居宅の可能性のある掘立柱建物25棟などが発見され、市内屈指の遺跡として注目された。

上久堅自治協議会では、遺跡を将来にわたって保存継承するために史跡公園化することを決定し、昭和63年1月、公園が完成した。北田遺跡公園は、縄文時代中期(約4500年前)の住居1棟、古墳時代後期(約1300年前)の住居1棟が復元された後、飯田市に寄贈され、現在、上久堅地区まちづくり委員会を指定管理者としている。

平成13年度には古墳時代の復元住居の、14年度には縄文時代の復元住居の屋根葺替えを実施した。令和3年度に古墳時代棟を老朽化のため撤去し、令和4年度に縄文時代棟の屋根葺替えを地域の方々と再度実施した。

[所在地] 飯田市上久堅原平

⑤飯田市上郷歴史民俗資料館

飯田市上郷歴史民俗資料館は、昭和36年から上郷小学校に収蔵されていた資料を展示するため、昭和54年に開館。その後、旧上郷町内の民俗資料調査を実施し、資料の収集を行った。

展示内容は、上郷地区内産業資料(農林業・養蚕・染物・紡織)、生活資料などの民俗資料や小学校教科書、近世文書などが中心。特に、野底山の林業や産業については、テーマを設けて展示をしている。

[所在地] 飯田市上郷飯沼3118番地

[開館] 見学希望の場合は文化財保護活用課に申し出ること。ただし日・祝・12/29から1/3までは休館

[開館時間] 9:00から16:00

[観覧料] 無料

⑥県宝旧座光寺麻績学校校舎(麻績校舎)

旧座光寺麻績学校校舎は、明治5年(1872)8月の学制発布後、わずか2年後の明治7年(1874)4月に竣工した校舎で、現存する学校建物としては県下で最古である。建設にあたっては、学校用地はもとより、建築資材や資金も村中から寄付された経過がある。



校舎の特徴は、当時学校建設と共に要望の強かった歌舞伎舞台と兼用できるように造られており、農村の歌舞伎舞台としても県下最大級の規模である。しかも開校以来、昭和59年の学校移転まで、110年の長きにわたり校舎として使用され続けていた貴重な建物である。

昭和59年2月の学校移転に際し、校舎の現地での保存が決まった。その後、昭和60年に県宝指定、平成9年3月には復元整備工事が完了し、校舎と共に関係資料も展示

公開されている。

〔所在地〕 飯田市座光寺 2535 番地

〔県宝指定〕 昭和 60 年 11 月 21 日

〔構造〕 木造 2 階建、一部中 2 階建、^{さんがわらぶきいりもやづくり} 棧瓦葺入母屋造。正面 1 階は歌舞伎舞台、2 階は教室として計画された。1 階正面に長さ 8 間の^{はり}梁を渡し、その左右の^{たゆうざ}太夫座・^{げざ}下座部分に 2 段の格子窓がある。舞台裏は、1 階が土間床、中 2 階は畳敷の部屋である。

〔復元整備〕 平成 7 年 9 月から平成 9 年 3 月まで

〔開館〕 1/4 から 12/28、ただし毎週月曜日と祝祭日の翌日は休館
9 : 00 から 17 : 00

〔観覧料〕 無料

⑦菱田春草生誕地公園

菱田春草は、明治 7 年(1874)9 月 21 日、飯田市仲ノ町で、飯田藩士の三男として生まれた。春草は、15 歳まで仲ノ町で暮らし、明治 22 年(1889)に上京して、東京美術学校(現東京藝術大学美術学部)に入学した。春草は、岡倉天心の指導を仰ぎ、横山大観・下村観山・木村武山らとともに、新しい日本絵画の創出に挑んだが、満 36 歳の若さでこの世を去った。春草は、国の重要文化財に指定されている



『王昭君』、『賢首菩薩』、『落葉』、『黒き猫』をはじめとする日本の美術史上に残る多くの名作を描き上げ、今もなお見る人々に深い感動を与え続けている。

春草生誕地公園は、地元の橋北まちづくり委員会による署名運動が契機となり、春草没後 100 年となる平成 23 年に、『菱田春草誕生の地』の整備を願う市民の会」が設立され、市の内外に呼びかけて公園建設のための募金活動が行われた。その活動が実り、生誕 140 周年となる平成 27 年 3 月に公園が開園した。

施設の所在する仲ノ町は、飯田城下町当時には武家の屋敷が連なっていた歴史があるため、通りに面して武家屋敷風の塀を配するなど、当時の趣を再現した造りとなっている。

現在、パートナーシップ協定に基づいて、地域住民と市民有志により設立された「春草公園を愛する会」が中心となって、公園完成後の管理活用を行っている。

〔所在地〕

飯田市仲ノ町 307 番地 1

⑧旧飯田測候所

飯田測候所は、国営の測候所として大正 11 年 12 月に竣工され、以来、平成 14 年 5 月に市内高羽町の国合同庁舎へ移転するまで、飯田地域の気象観測の拠点として 80 年にわたり活用されてきました。建築から 90 年以上を数える建物で、長野県に残る唯一の大正期の測候所庁舎であることから、我が国の気象観測の歴史を知る上で重要な資料です。



飯田市では、平成 19 年に国からこの建物の払下げを受け、さらに平成 24 年 8 月には登録有形文化財の登録も受けて、平成 25 年度に改修事業を実施し、平成 26 年 4 月に飯田市の公の施設として供用を開始した。

[指定年月日] 平成 24 年 8 月 13 日
[構造及び形式] 木造棧瓦葺 平屋建て 寄棟造り
[所在地] 飯田市馬場町 3 丁目 411 番地

⑨飯田市恒川史跡公園

「史跡 恒川官衙遺跡」は、奈良・平安時代の信濃国伊那郡を治めた「伊那郡衙」の跡地と考えられる遺跡である。この遺跡からは、当時の税である稲等を納めた正倉の建物跡と建物を区画した溝、くりや厨家という給食施設、さいし祭祀を行った跡など多くの遺構が見つかっており、古代国家の地方統治のあり方を知る上で重要な遺跡である。



飯田市では、この遺跡を次世代へ確実に継承するため、指定地の一部を公有地化して史跡公園として整備を進めている。令和 4 年 4 月から清水エリアを、令和 5 年 4 月から正倉院北側エリアの供用を開始した。

[史跡指定年月日] 平成 26 年 3 月 18 日
[所在地] 飯田市座光寺 4635 他